

# 表現力を高めるためのデザイン思考を培うデザインカリキュラムの開発 ～ 図画工作・美術科のデザイン学習からの提案～

所属校：港区立青南小学校

氏名：今 福 ち か

派遣先：玉川大学教職大学院

キーワード：豊かな心 人格形成 デザイン学習 デザイン思考 課題解決型学習  
思考力・判断力・表現力 視覚リテラシー

## I 研究の目的

本研究は、子供たちがこれから生き抜く資質としての、「生きる力」を培うために、豊かな心や人間性を基盤とする教育の実現のために提案するものである。

図画工作・美術科教育の目標は、豊かな感性・情緒を育み、他者とのかかわりを通して、自己表現・自己実現をするものである。つまり、子供の人格の形成にとってきわめて重要な側面を担っている。また、今日的社会の急速な変化の中でも、図画工作・美術科教育の意義や社会的な役割について、もう一度考え直す必要がある。図画工作・美術科の中におけるデザイン学習に着目し、デザインと子供の発達や資質・能力との関係を、これまでの図画工作・美術科教育の流れや学習指導要領の変遷から調査した。その中で浮上してきた課題は、教科教育の理念や特性の揺らぎと現行の教育内容における、図画工作科と美術科における格差であった。

特にデザインの領域は、小学校と中学校の内容にかなりの違いがあり、ある意味、その原因が中1ギャップを生じさせている。それらの今日的教育課題解決や現代社会の変容に対応する方法として、デザイン学習のプロセスとデザイン思考を身に付けることが有効であると考えた。

よって本研究の主たる目的は、図画工作・美術科のデザイン学習において、表現力を高めるデザイン思考を培うデザインカリキュラムの開発と、デザインカリキュラムの開発に資する実践例を収集して分析することとした。

さらに、デザイン学習のプロセスは問題・課題解

決型学習であり、その特性やよさを生かした表現活動をすすめることや、表現を支えるための視覚リテラシー（構成教育）の重要性を、実践例やインタビューによって裏付けることを目的とした。

## II 研究方法

### 1 文献研究

- (1)子供の発達とデザインのかかわり
- (2)図画工作・美術科教育の意義と目的
- (3)図画工作・美術科の学習指導要領の変遷
- (4)デザイン教育（構成教育の流れ）デザイン思考・デザイン学習（デザインプロセス）
- (5)図画工作・美術科の連携したカリキュラム
- (6)他教科との連携

### 2 実践事例からリサーチ・デザイン思考と学習に関するもの

- (1)小学校図画工作科からの実践事例  
（機能目的・木工作・6年/構成学習・抽象絵画表現・4年）
- (2)中学校美術科からの実践事例  
（伝達デザイン・文字絵・中学1年）
- (3)他教科との関連の実践事例  
（算数科・平面図形・1年・3年/総合的な学習の時間・キャリア教育・6年）

### 3 インタビュー等

- (1)現場の教師（図工専科・美術科教員）
- (2)デザイナー（アートディレクター・タイポグラフィーデザイナー）
- (3)専門家（情報教育研究者・図画工作・美術科教育研究者）

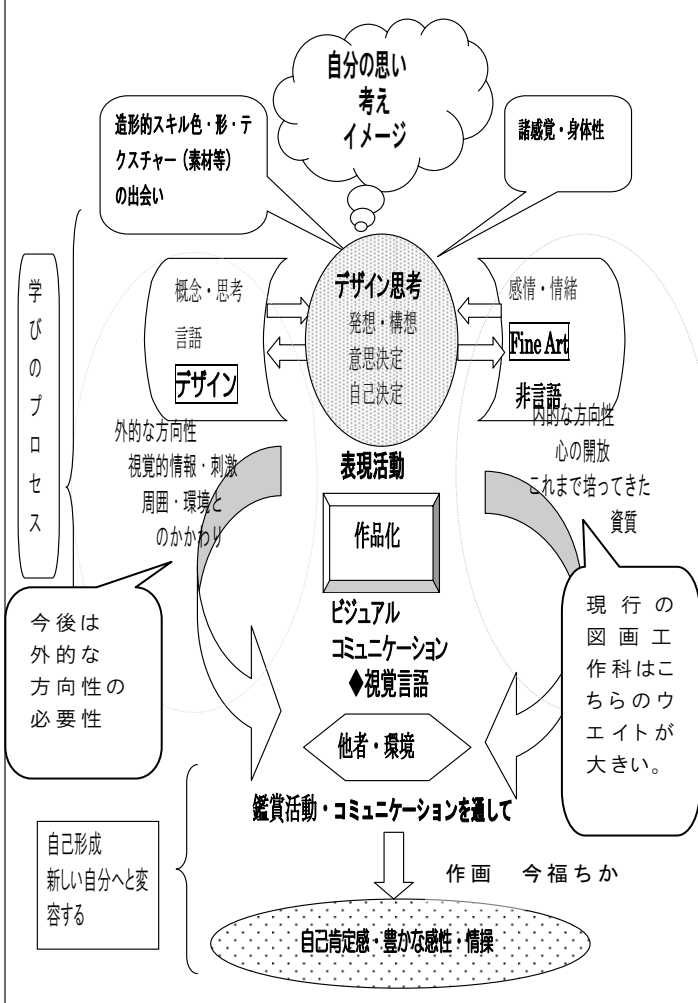
### Ⅲ 研究の結果

#### 1 デザイン思考とは

- (1) 目的や用途を考えて設計すること
  - (2) 他者や環境に対してかかわり方(関係性)を考えること
  - (3) もの・ことを制作するプロセスから結果、その後までを考えること
  - (4) 条件に応じた材料・方法を選び取り具現化すること
  - (5) 具体的な色や・形・テクスチャー・メディアを通して、その特性を生かしながら具現化すること
  - (6) より良いもしくは美しさなど調和・機能美などを考えて構成をすること
  - (7) 制作者のオリジナルな発想を生かすこと
- は思考を表す。

#### 2 デザイン思考の構想図

図6 デザイン思考と表現のかかわり



### 3 研究により明らかになったこと

文献研究や実践事例研究の調査を通して得られたことは、現在の図画工作・美術科教育の変遷におけるデザイン教育や構成教育の位置づけと今後の可能性についてである。

また、デザイン思考が美術教育のデザイン学習から発生してきていることや、その学習におけるプロセスと方法が「思考力・判断力」を培い表現力を高めるものになることが明らかになった。

### 4 研究の結論

デザイン学習(デザインカリキュラム)の意義と有用性

### Ⅳ 考察

#### 1 今後の課題

- (1) デザイン思考を耕すための、題材開発・指導法の研究
- (2) 実際の現場に対応したデザインカリキュラムの活用方法(他教科・小・中連携を視座に入れた具体案)

#### 2 学校教育への示唆

- (1) デザイン思考と視覚リテラシー(視覚言語)のバランスのとれた教育の必要性(思考力・判断力の育成と造型における表現力の習得と活用)
- (2) 発達段階に応じた、人格形成を基盤とした「美術を通じた教育」とゆるやかな専門的「美術の教育」の連続性

